

2018.8.9

第15回加速器学会 高エネルギー加速器研究機構 (KEK) 飯田 直子

for SuperKEKB and LINAC Commissioning Group

ダンピング・リング (DR): SuperKEKB-LERに入射するためのe+ビームの エミッタンスを小さくする





0. DR

1. The DR Complex

- Positron <u>Damping Ring(DR)</u>
- <u>Linac To Ring(LTR)</u>: DRへの入射路
- <u>Ring To Linac(RTL)</u>: DRからの出射路
- 2. LTRのコミッショニング
- 3. RTLのコミッショニング
- 4. まとめ



SuperKEKB-LERから 入射ビームへの要求値

		-	
	Phase 2	Phase3 -	
	2018年	2019年~	
γεχ [μm]	< 200	< 100	
γε γ [μm]	< 40	< 15	
σδ [%]	0.16	0.1	
電荷量 [nC]	1.5	4.0	

FODO Cell with Negative Bend

Radiation Damping Timeを短くするため、Negative Bendを採用した(M. Kikuchi)



2

DR Parameters

0. DR

Parameters	New Model	Unit
Energy	1.1	GeV
Circumference	135.498295	m
# of bunch	2	
# of bunch / train	2	
Max. stored current	11	mA
Energy loss per turn	0.0847	MV
Damping time $(\tau_x / \tau_y / \tau_z)$	11.5 / 11.7 / 5.8	msec
Emittance $(\varepsilon_x / \varepsilon_y / \varepsilon_z)$	29.2 / 1.5 / 3630	nm
$arepsilon_y$ / $arepsilon_x$	5	%
$v_x / v_y / v_s$	8.830 / 6.280 / -0.018	
Energy spread	0.055	%
Bunch length	6.6	mm
Mom. Comp. factor	0.0100	
# of cells	32	
Total RF voltage	1.0	MV
RF frequency	509	MHz
Bucket Height	1.5	%

γε_x/γε_x(μm)=64.3/3.2

	DRへの 入射	DR 設計値
γε _x (μm)	2800	64.3
γε _γ (μm)	2600	3.2
σ _z (mm)	±30*	6.6
$\sigma_{\delta}(\%)$	±1.5*	0.055

1. DR complex

- LTR: 入射路
 - フラックスコンセントレーター(FC)(MOP063, Y. Enomoto, 他)からの陽電子は進行方向に
 巨大な広がりがある。ロスに注意!
 - DRのエネルギーアクセプタンス1.5%以内に納めるため、LTRでは入射ビームのエネル ギー広がりを小さくしなければならない。→ Energy Compression System(ECS)
 - R56= 0.6 m, Vc=41 MV
- RTL: 出射路
 - DRで<u>小さくなったエミッタンスを増大させずに、下流まで輸送</u>する。
 - DRからのバンチ長は6.6mmと長いので、LINACのS-bandに乗せるために短くしなければ ならない。 → Bunch Compression System(BSC)
 - R56= 1.05 m, Vc=21.5 MV



Site of the DR



DRはKEKの敷地境界に近い。

2. LTRのコミッショニング

•2018年1月23日

- LTRコミッショニング開始
- •1月24日には、LTR終端までビームが到達した。
- 当初はFCなしの0.75nC/bunchで運転
- ロスに注意! • DRはKEKの境界領域に近いため、ビームロスは 低く抑えなければならない。
- LTR調整
- ・LTR、RTLの電磁石はDRのエネルギーに合わせて ヤット

2. LTRのコミッショニング

LTRレイアウトとOptics



7

2.LTRコミッショニング



- 1. 吟醸(コア)ビームを作って調整
 - 吟醸ビームは、第一アーク内のコリメーターで、"磨く"。
 - ECS Offで、そのビームがビームパイプの真ん中を通るように調整。
 - 吟醸ビームでECSの位相調整をする(ゼロクロスを探す)
- 2. DR入射調整も、吟醸ビー↓を使って行う。
 - 飽くまで、進行方向位相空間中心で合わせる。
- 3. コリメーターを開ける
- 4. 最後に、運転ビームに戻す。
- 5. これ以降、運転ビームで上記の調整をしてはならない。





運転用ビーム





運転用ビームは、ビームパイプ中心の周りを回転しながら進む.







2.LTRのコミッショニング

吟醸ビームでECS調整

Y. Seimiya, N. Iida



通常の**ECS**だと、 真横になるが、、



(Simulation)

S-bandのカーブがあるが、 ±**1.5%**以内に収めるため、 傾きをつけた



10

LTRのワイヤースキャナー(WS)でエミッタンスを測定

4台1組(ABCD)のワイヤースキャナーをLTR直線部に設置、ビームサイズ測定に使用。



		0.75nC	1.5nC
測定値	測定	FC : Stand-by	FC : 5kV
	γε <mark>χ [μm]</mark>	2350	2760
	γεγ [μm]	2310	2450
	BMAGx	1.58	1.53
	BMAGy	1.00	1.01
FCのOn/Offで、測定されたエミッタンスに 大きな違いはなかった。			

		4nC	
設計値	DR 設計	入射路	出射
	γε _x (μm)	2800	89.3
	γε _γ (μm)	2600	4.5
	σ _z (mm)	±30*	6.6
	$\sigma_{\delta}(\%)$	±1.5*	0.055

DR入射からLINAC終端まで

H. Sugimoto



H. Sugimoto



H. Sugimoto



H. Sugimoto



H. Sugimoto



H. Sugimoto



H. Sugimoto





各アーク部のDispersion補正

低エミッタンスの保持には、各アークでDispersionが閉じてないといけない。



3セクターのワイヤースキャナーで エミッタンスを測定

0.7 [nC]	Sector 3			DR(Optics Calculation)
	補正前	第2アーク 補正後	第1アーク 補正後	
γεχ [μπ] 293 ± 44.5	192±22.4	126±8.2	> 64.3
γε γ [μm] 1.84±0.163	2.01±0.363	1.5±0.1	XY coupling at DR =1.5/64.3 <=2.3 ± 0.2%

水平Dispersionは半分以下に。

DRのXY Couplingは2.3%以下と推定される。



5セクターのワイヤースキャナーで エミッタンスを測定



0.7 [nC]	wsによる測定値		SuperKI からの	EKB-LER 要求値
	Sector 3	Sector 5	Phase-2	Phase-3
γεχ (μm)	126 ± 8.2	189 ± 64	< 200	< 100
γε <mark>γ (μ</mark> m)	1.5 ± 0.1	1.9 ± 0.3	< 40	< 15

DR 設計	入射	出射
γε _x (μm)	2800	64.3
γε _y (μm)	2600	3.2
σ _z (mm)	±30*	6.6
$\sigma_{\delta}(\%)$	±1.5*	0.055

- 3~5セクターでエミッタンス増大が観測されている。
 - Transverse Wake Fieldの問題。
 - Offset 軌道によるWake FieldのCancelを行う予定。
- 水平エミッタンスについては、Phase-3以降のSuperKEKB-LERからの入射ビーム条件が満たされない。

DR内のDispersion測定値からの寄与



	H[m]	δ	∆ε[nm]	Δγε[μm]	ε [μm]	Δε/ε
Х	6.08e-5	Г Го 4	1.84e-2	0.04	64.3 (from DR Optics calculation)	6.2e-4
Y	4.49e-5	5.58-4	1.36e-2	0.03	1.9 (from WS measurement)	1.5e-2

DR出射点で測定された水平DispersionからRTLへのエミッタンスの寄与は、 RTLでのエミッタンスに対して無視できるほど小さい。





水平エミッタンスの電荷量依存測定

電荷量 (nC)	加速電圧(MV)	γβε _x (μm)	γβε _γ (μm)
0.7	0	88±7.6	1.4 ± 0.4
1.5	0	104 ± 7.4	3.7 ± 0.5



CSR

インスタビリティの概算

Handbook of Accelerator Physics and Engineering

$$\|(k) = \frac{1}{c} \int_0^\infty dz W_{\parallel}(z) e^{-ikz}$$
$$= \frac{Z_0}{2\pi} \frac{e^{I\pi/6}}{3^{1/3}} \Gamma\left(\frac{2}{3}\right) \frac{k^{1/3}}{R^{2/3}}$$

dE=Z(k)L*I/E dεx=(ηx*dE)²/ β x $\Delta\gamma$ εx=Sum \sum dεx)i=0.81µm < 40µm Z0=377 R=3.35m sz=1~7mm L=0.7938m cc=1nC, E=1.1GeV I=cc/σz*c 材質:SUS316L

Resistive wall

Z

$$\frac{Z_m^{\parallel}}{L} = \frac{\omega}{c} = \frac{Z_m^{\perp}}{L}$$
$$= \frac{Z_0 c / (\pi b^{2m})}{[1 + sgn(\omega)i](1 + \delta_{m0})bc\sqrt{\frac{\sigma_c Z_{0c}}{2|\omega|} - \frac{ib^2\omega}{m+1} + \frac{imc^2}{\omega}}}$$

Δγεx=Sum∑dɛx)i=0.0012μm << 40μm いずれも概算では影響は小さそうであるが、さらにCSRのTracking simulationを検討中 (D. Zhou and Y. Seimi⅔a)

まとめ

- SuperKEKB-LER用陽電子入射ビームのエミッタ ンスを小さくするためのDRへの入出射コミッ ショニングを行った。
- 2018年2月、入射(LTR)、出射(RTL)共に順調に立ち上がり、7月までSuperKEKB-LERに入射した。
- 今後の課題
 - DRから出射路されたビームのエミッタンスは、 SuperKEKB-Phase2(2018年運転)の要求を満たしてい るが、今後SuperKEKBの性能向上につれて、対策が 必要である。
 - RTLエミッタンス増大の原因については検討中
 - DR内のエミッタンス(ビームサイズ)測定
 - 3 セクターでのバンチ長測定
 - (BT下流でのエミッタンス増大)